第30回定期演奏会

Tokyo Sinfonietta the 30th Subscription Concert

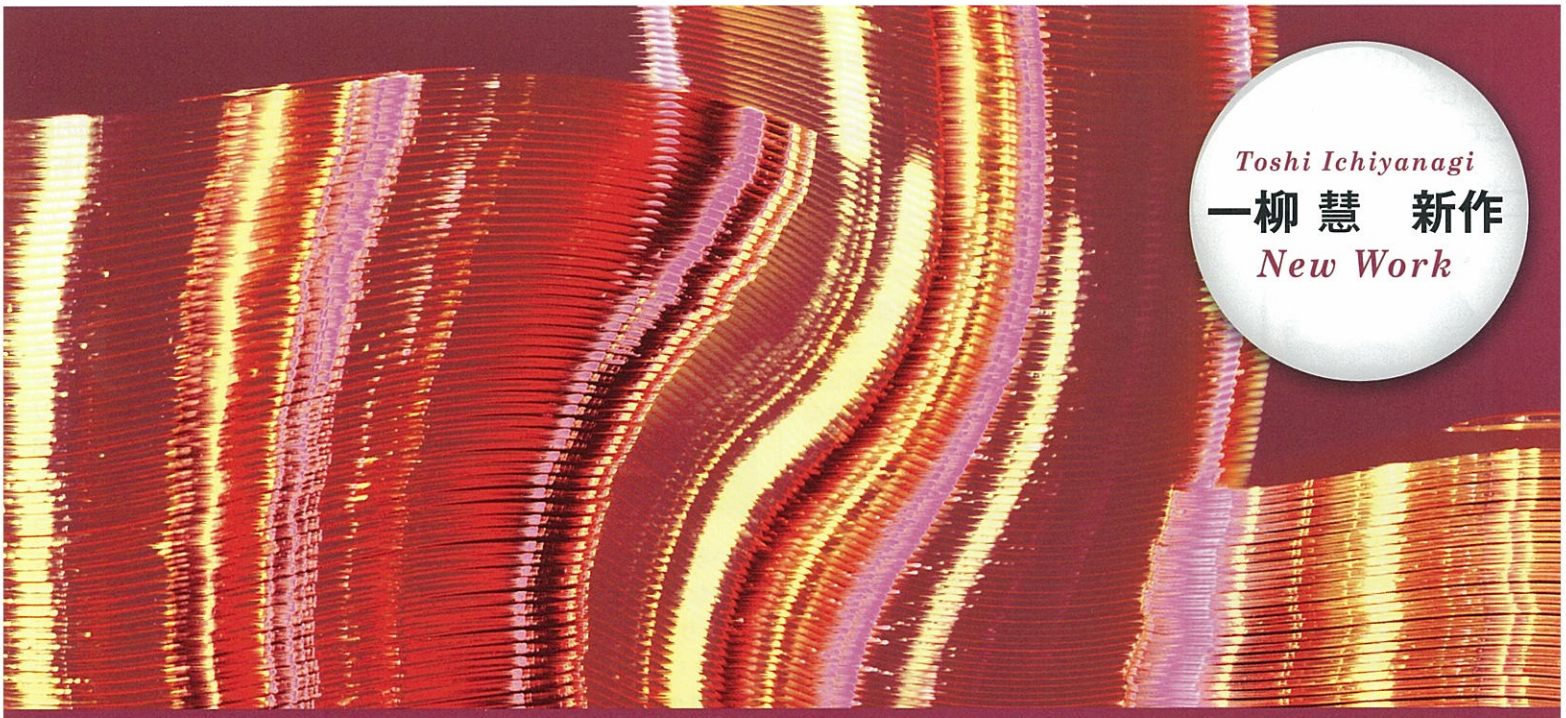
東京シンフォニエッタ TS

2011/12/3 (土) 開演 14:00

14:00 Saturday,3rd December 2011

東京文化会館小ホール

Tokyo Bunka Kaikan Small Hall



一柳 慧 特集

Featuring on Toshi Ichiyanagi

指揮：板倉康明
Conductor：Yasuaki Itakura

ピアノ：一柳 慧
Piano：Toshi Ichiyanagi

演奏：東京シンフォニエッタ
Ensemble：Tokyo Sinfonietta

入場料：一般 4,000円／学生 3,000円
主催：東京シンフォニエッタ
助成：芸術文化振興基金
公益財団法人 花王芸術・科学財団

シュトックハウゼン：ツァイトマッセ（1955-56）
Karlheinz Stockhausen: Zeitmasze

一柳 慧：弦楽四重奏曲（1956-57）
Toshi Ichiyanagi: String Quartet

一柳 慧：ビトゥイーン・スペース・アンド・タイム 室内オーケストラのための（2001）
Toshi Ichiyanagi: Between Space and Time for chamber orchestra

一柳 慧：トリオ・インターリンク ヴァイオリン、ピアノ、打楽器のための（1990）
Toshi Ichiyanagi: Trio Interlink for violin, piano and percussion

一柳 慧：レゾナント・スペース クラリネットとピアノのための（2007）
Toshi Ichiyanagi: Resonant Space for clarinet and piano

一柳 慧：交響曲第8番 Revelation 2011 室内オーケストラ版（2011）
［東京シンフォニエッタ委嘱世界初演］
Toshi Ichiyanagi: Symphony No.8 – Revelation 2011

Tokyo Sinfonietta the 30th Subscription Concert

第30回 定期演奏会 東京シンフォニエッタ TS

一柳 慧 特集

Featuring on Toshi Ichiyanagi

2011年12月3日 土

午後2時開演 東京文化会館小ホール

第30回定期演奏会 一柳慧特集 によせて

20年ほど前までは、ヨーロッパに現代の音楽を専門に演奏する室内オーケストラがいくつも存在するのを、羨ましく思っていた時期があった。だが今は、東京シンフォニエッタの活動にも見られるように、自主制作による定期演奏会や、多様な内容の企画性の高いプログラミング、委嘱作品の初演や再演など、かつてのヨーロッパのように、日本でも急速に新しい音楽環境が成熟しつつあるのを感じる。**今年**、3.11 のような未曾有の大災害の現実に直面した私たちは、今、自然と文明や、自然と人間の新しい関係をいかに再構築するかが問われている。今回は私の交響曲 8 番の初演が含まれているが、3.11 を経験した後の最初のこの作品を、板倉さんをはじめ、皆さんがどのような演奏で聴かせて下さるか、心から楽しみにしている。

一柳 慧

一柳 慧 Toshi Ichiynagi 1933-

神戸出身。作曲家、ピアニスト。10代で2度毎日音楽コンクール（現日本音楽コンクール）作曲部門第1位受賞。19歳で渡米、ニューヨークでジョン・ケージらと実験的音楽活動を展開し1961年に帰国。偶然性の導入や図形楽譜を用いた作品で、様々な分野に強い影響を与える。これまでに尾高賞を4回、フランス文化勲章、毎日芸術賞、京都音楽大賞、サントリー音楽賞、紫綬褒章、旭日小綬章など受賞多数。作品は文化庁委嘱のオペラ「モモ」(1995) や、新国立劇場委嘱オペラ「光」(2003)、神奈川県文化財団委嘱オペラ「愛の白夜」(2006) の他、7曲の交響曲、8曲の協奏曲、室内楽作品、電子コンピューター音楽、他に「往還楽」「雪の岸、風の根」「邂逅」などの雅楽、声明を中心とした大型の伝統音楽など多岐にわたっており、音楽の空間性を追求した独自の作風による作品を発表し続けている。作品は国内のオーケストラはもとより、フランス・ナショナル、イギリス・BBC、スイス・トーンハレ、ノルウェー・オスロフィルなどにより世界各国で演奏されている。現在、財団法人神奈川芸術文化財団芸術総監督。また、正倉院や古代中国ペルシャの復元楽器を中心としたアンサンブル「千年の響き」の芸術監督。2008年より文化功労者。

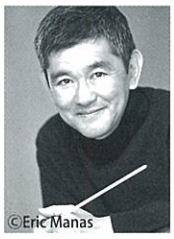
◎次回定期演奏会の予告◎

2012年7月6日(金) 19:00～
サントリーホール ブルーローズ

西村朗：虹の体／ジャン・ルイ・アゴベ：東京シンフォニエッタ＆ラジオフランス共同委嘱作品（日本初演）／ベンジャミン・アタヒール：新作（日本初演）／その他、2012年5月フランス公演ツアーにて演奏される曲目

カールハインツ・シュトックハウゼン Karlheinz Stockhausen 1928-2007

ドイツの作曲家、理論家。電子音楽やライヴ・エレクトロニクス、直感音楽など1950年以降の音楽の新たな地平を切り開き、60年代はノーノ、ブーレーズ等とともに前衛の騎手となる。マルタン、メシアンに師事。フランス放送のミュージック・コンクレート・スタジオで音響理論を研究。1953年からダルムシュタット夏期音楽講習会で講師を務める。音楽を「音を構造化する行為」とする音楽的思考の根底にはセリーの原則がある。持続・強度・音高・音色という4つの次元から「音」の構造を追及し、この独自の理論にもとづいて、電子音楽、テープ、器楽、声などを音素材とした作品を編み出していく。「ツァイトマッセ（時間の度量）」(1955-56) はテンポの同時性または多層性を追求した室内楽の新しい試みであった。



指揮：板倉康明 Yasuaki Itakura 1960-

東京藝術大学を経て仏政府給費留学生として渡仏。パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院を卒業。クラリネットソリストとしてキャリアを積み、これまでに東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。また国内外で、日本の作品について、演奏、講義を行っている。1996年西村朗作品により指揮デビュー。以後、現代作品を中心に、活発な指揮活動を行っている。これまでに、サントリー・サマーフェスティバル、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、プレゾンス音楽祭（仏）、ミュージック・フロム・ジャパン（NY）、現代音楽アスペクト（仏カーン）等、国内外の音楽祭に招聘されている。日本音楽コンクール委員会特別賞、第18回中島健蔵音楽賞を受賞。

アンサンブル：東京シンフォニエッタ Tokyo Sinfonietta 1994-

東京シンフォニエッタは同時代の音楽の優れた演奏と、現在活動している作曲家達の創作と直接関わることを目的として設立しました。以来、東京での定期公演や各種音楽祭への参加などを通して、国籍も美学も異なる現在活躍中の内外の作曲家の作品を演奏し紹介してきました。現代作曲家の、非常に高度な要求に応えるべく結成された室内オーケストラです。繊細かつ正確無比な現代の日本文化を音で表現するアンサンブルとして国内外で高い評価を得ています。2010年12月の「第28回定期演奏会 - 湯浅譲二特集」が、サントリー芸術財団「佐治敬三賞」を受賞しました。

主催：東京シンフォニエッタ http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ts/
助成：芸術文化振興基金 公益財団法人花王芸術・科学財団
チケットお取り扱い：チケットぴあ 0570-02-9999 t.pia.jp Pコード150-793 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 http://www.t-bunka.jp
お問合せ：東京コンサーツ 03-3226-9755（月～金10:00～18:00）http://tokyo-concerts.co.jp（HPにて予約、セブン・イレブンにて支払・受取ができます。）
東京文化会館：「JR上野駅」公園口正面